

富士山における自然保護活動

渡 辺 豊 博

変容する富士山

富士山は万葉の昔から「不二山」「不尽山」と書かれ、日本人の^{あこが}憧れと崇高を集める「信仰の山」であった。文化的・歴史的・宗教的にみても、日本人にとっては欠くことのできない、まさに、「心のふるさと」「誇りの山」であった。

しかし、現在の富士山は、「観光の山」に変容してしまった。東京オリンピックが開催された昭和39（1964）年に、山梨県側の富士山5合目まで車で容易に行くことができる「富士スバルライン」が建設されたためだ。建設にあたり道路の造りやすさが優先されたことから、貴重な原生林が伐採され、道路周辺の山肌に大きな傷を残した。当時、多くの環境保護団体が、建設について異議を唱え、自然環境にできるだけ負荷をかけない道路建設の方法論を提案したにもかかわらず、道路造りを優先し、行政主導の独り善がりな事業推進を強行したことによって、多くの禍根を残す結果になってしまった。

建設後には、環境保護団体の指摘した通り、周辺の木々の立枯れが進行し、土砂災害の頻繁な発生、生態系への悪影響など、富士山の環境に与えるダメージは甚大なものとなった。

その後、環境悪化の再生に30年以上の歳月と多くの税金が投入された事実関係を考えると、富士山の環境保護のためには行政だけの情報と施策では明らかに対応能力不足であり、市民・NPO・企業など多くの関係者とのパートナーシップによる「知恵と行動のネットワーク」と「現場情報と専門性に裏づけされた情報の総合力」が求められているといえ

るだろう。

その後、昭和48（1973）年に、静岡県側の5合目にも「富士山スカイライン」（図1）が建設されたことから、山梨・静岡の両県で年間240万人の観光客が車で5合目を訪れ、そのうち約30万人が富士山頂を目指して登山する「身近な山」に変容してしまった。



図1 富士山スカイライン（静岡県側）。写真左側、5号目付近までの山肌に蛇行しているのが見える（写真提供：富士山クラブ理事、中川雄三氏）。

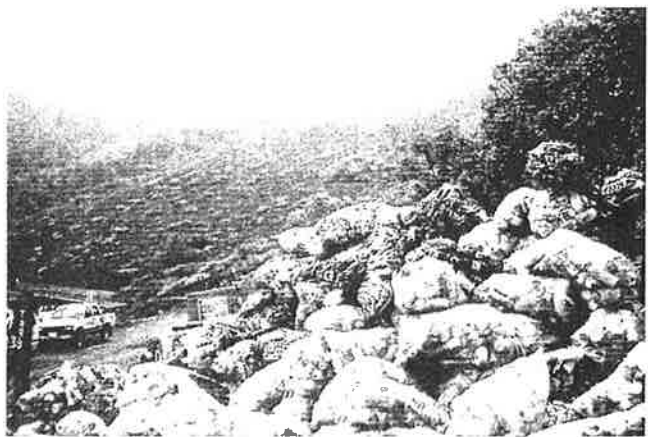


図2 5号目付近に集められたゴミの山（写真提供：中川雄三氏）。



図3 ゴルフ場の乱立。写真下部、山麓に白く筋のように見える（写真提供：中川雄三氏）。

そのために、富士山にはさまざまな環境問題が発生することになり、満身創痍の「傷だらけの山」になってしまった。「傷」とは、ゴミの放置（図2）、し尿の垂れ流し、産業廃棄物の投棄、放置森林の拡大、オフロード車の進入、ゴルフ場の乱立（図3）、乱開発の進行、湧水の汚染と減少、酸性雨と立枯れの拡大、動植物の減少、溶岩洞窟の破壊など、「環境破壊のデパート」「日本の環境問題が凝縮する負の展示場」といえる出口のみえない厳しい現実が横たわっている。

市民力で富士山を再生—富士山クラブが発足

このような中で、NPO法人「富士山クラブ」は、さまざまな環境問題が複雑に交錯し、解決への糸口が見いだせず迷走している富士山に対して、市民力を結集した新たな自然保護活動を展開すべく、今から5年前に発足した。富士山を汚しているのは、国民一人一人であるとの認識のもと、富士山で起きている環境問題の現実と実態を全国民に情報発信することによって、問題意識の醸成と解決への具体的な行動に誘導していくことを目的としている。

総論的で情緒的なNPO活動ではなく、長期計画に基づいた戦略的・持続的な環境保全活動を目指している。行政を批判せず、行政では財政や組織上の制約のため対応できない創造的で先駆的な環境施策を進めることが、「活動の理念・志」である。

市民の発想力と行動力で、富士山の自然保護施策として「何ができるのか、何をしなくてはならないのか、何が足りないのか」など、内在する環境問題を総合的に整理・分析し、独自の解決方策を立案・具現化していくのが、富士山クラブの役割である。その推進力は、「資金力・専門性・ネットワーク・人材・組織力・経営力・行動力」などであり、活動の成果を通して、信頼性を高め活動の基盤を強化していくものである。行政への依存や補助なしでも、市民力の結集によって、富士山の環境問題が解決できることを実証することが、富士山の自然保護についての早道であることを国民に理解してもらう。これが富士山クラブのねらいである。

主要な事業としては、1.「富士山トイレ浄化プロジェクト（バイオトイレ）」の推進、2. 富士山クラブ「もりの学校」の開校、3. エコツアーの充実と拡大、4. 富士山を世界遺産にする国民運動の推進、5. 富士山クラブ5周年記念事業「国際姉妹山提携事業」の企画・推進、6. 「富士山の日」事業の企画、7. 「富士山環境ボランティアネットワーク会議」の拡大、8. 「富士山大好き100人会議」の設立、9. “富士”のつく企業等との協働事業の推進、11. 環境保全活動の実践（① 富士山ゴミマップの作成、② 富士山での清掃活動の実施、③ 森づくりの実施（静岡県西白塚・富士山クラブの森が現場；図4）、12. 富士山水と緑の育水基金などである。その中で、今いちばん重点を置いているのが、



図4 森づくり（静岡県西白塚・富士山クラブの森）。

し尿問題解決への挑戦である。

富士山のし尿問題

皆さんは、富士山を訪れる登山客のし尿が、どのように処理されているか知っているだろうか。富士山の5合目以上には、静岡県と山梨県を含めて約50カ所の山小屋があり、天候異変での避難や宿泊施設として重要な役割を果たしている。

しかし、ほとんどの山小屋の便所は床に穴が空いているだけの汲^{くみ}取り形式となっており、し尿処理は、8月下旬に山小屋を閉じるときに、斜面上に放流（垂れ流し）しているだけである。何十年にもわたり、この行為が繰り返されたことによって、今では多くのトイレトーパーが山肌にへばりつき、「白い川」と呼ばれる垂れ流しの跡が、何kmにもわたり帯状につながり、周辺に強烈な悪臭を放っている。

近年、5合目以上のゴミ投棄の問題は、登山客や山小屋、行政等の努力により投棄量の減少がみられ、解決の方向に向かっていていると思われる。しかし、し尿処理の問題は、技術的、経済的、法律的等の課題が山積みとなっており、富士山仕様の効率的で安価な処理方式が見つからない迷走状態といえる。

環境バイオトイレの威力

そこで富士山クラブでは、解決への道筋がみえない富士山のし尿問題を改善すべく、「富士山トイレ浄化プロジェクト」として、昨年市民の創意工夫により、静岡県須走口と山梨県富士吉田口の5合目に杉チップを使用した「環境バイオトイレ」を初めて設置し、約1万人のし尿を問題なく円滑に処理した。

この装置は、一般の家庭で使用している水洗便所と同様の形式であり、杉がもつ消臭作用と微生物の繁殖を誘発する培養作用により、し尿を炭酸ガスと水に分解してしまう、無臭・無汚泥の「自己完結型循環式トイレ」である。

平成13年度は、前年度の成果を踏まえ、日本で

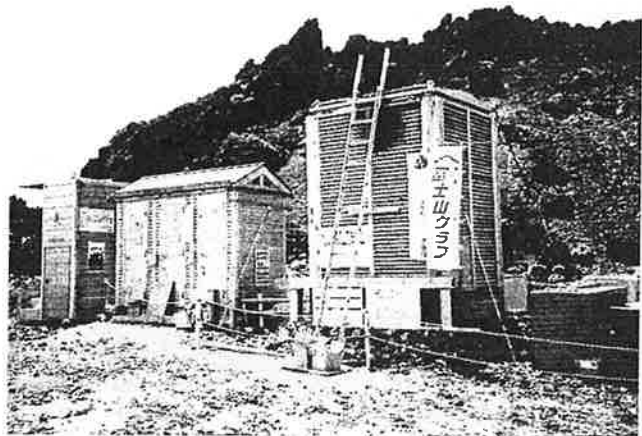


図5 富士山頂に設置されたバイオトイレ。



図6 全国各地の市民ボランティアからの杉チップの受取。

初めて富士山頂浅間大社奥宮付近に、杉チップタイプ1基とオガクズタイプ1基の計2基（4室）を設置した（図5）。1日の処理能力は最大600人。利用者に1回200円の使用料を払ってもらい、設置費用約2000万円の一部にあてた。

設置工事については、NPO法人「ふじのくにまちづくり支援隊」の土木技術者延べ120人の支援を受け、多くの参加者が高山病に苦しみながらも1週間にわたって資材運搬や組立て、設置にかかわったほか、市民ボランティア430人も全国各地から駆けつけ、杉チップの山頂への運び上げに協力してくれた（図6）。さらに、8月には小雨のため循環用の水が足りなくなったことからボランティアを募集したところ、500人もの人々が合計1トンもの水を担いで来てくれた。

パートナーシップの力

このように、今回のバイオトイレ設置の特異性と斬新性は、バイオトイレの山頂設置に対して、多くの市民ボランティアと企業の協力が得られたことにある。私たち NPO のささやかな挑戦と具体的提案に対して、賛同・協働していただき、全国各地より延べ 1500 人もの善意の応援団が、富士山頂まで苦しさに耐えて登って来てくれた。富士山を本当に愛する日本人がこんなにも多くいてくれることに大いに感動し、日本人はまだ捨てたものではないなと実感した。

富士山頂のバイオトイレを稼働させた 7 月 15 日から 8 月 21 日の約 40 日間で、約 5000 人が利用した。平均して 1 日に 120 人、多い日には 400 人が利用し、協力金は 75 万円集まり、一人あたりの平均協力金は 170 円となった。なんと利用者の 85 % もの人が自主的に使用料を支払ってくれたことになる。富士吉田口 5 合目の平均協力金の割合が、30 % であることと比較すると、たいへん高率になっており、清潔なトイレに対する期待と私たち NPO の挑戦への支援のメッセージではないかと感謝している。

昨夏の成功を踏まえ、今回、さらなる挑戦をすることにした。バイオトイレの富士山への恒久設置および通年稼働の可能性を検証するための、越冬による有効性実験である。このほど、富士山では初めて、環境庁と文化庁からこの実験の許可を得ることができた。この夏には、越冬後のバイオトイレの状態を調査する予定である。

このことにより、越冬による装置内の微生物の変化、強風・積雪による装置本体の耐久性、夏の再稼働の可能性等の確認ができ、本装置の機能の確実性がより高まり、今後、山小屋や環境省のトイレ改善への提案に説得力が増すものと期待している。

富士山での成功と実績が、し尿公害に悩む、全国

各地の山岳トイレの改善方策への現実的な提言につながり、より安価で効率的な装置を作るための技術開発とあいまって、飛躍的な環境改善への基盤づくりとなると確信している。

求められる行政の意識変革

富士山でのし尿問題解決への試行錯誤と参加者の熱き情熱、具体的な行動が、着実に富士山の環境改善に寄与している。行政の施策だけでは、間違いなく富士山の環境改善は進まず、多くの税金が無駄に投入されるだけだ。専門性と戦略性に裏づけされた富士山クラブの仲介のもと、市民・NPO・企業・行政がパートナーシップを組んだ、新たなかかわり合いのシステムづくりなくしては、富士山は永遠に救えないのではないかと考えている。

今こそ、行政は独り善がりな施策の展開をやめ、明確な理念と問題意識に裏づけされた環境 NPO の能力と行動力を活用した、新たな施策展開に転換する意識変革が必要であろう。自然公園法や文化財保護法等の諸法律の規制緩和、開発と保全の調和を図る総合的環境保全プランの制定、仲介役的 NPO との連携と事業委託、官民協働の保全委員会の設立、省庁の垣根を越えた総合管理組織の確立、富士山基金の創設、バイオトイレの山岳トイレへの活用等、広域的で多種多様な施策が必要とされている。

富士山は日本人自身によって汚されている。今こそ、この事実を国民は反省・^{どんげ}懺悔して、富士山の環境改善に向けた、市民・NPO・行政・企業・仲介役的 NPO との連携と協働による新たなシステムづくりが不可欠である。このことにより、富士山は再生し、近いうちに世界遺産（自然遺産・文化遺産）に登録できるものと信じており、富士山クラブはこれをおおいなる目標として、実現に向けての努力を継続するものである。

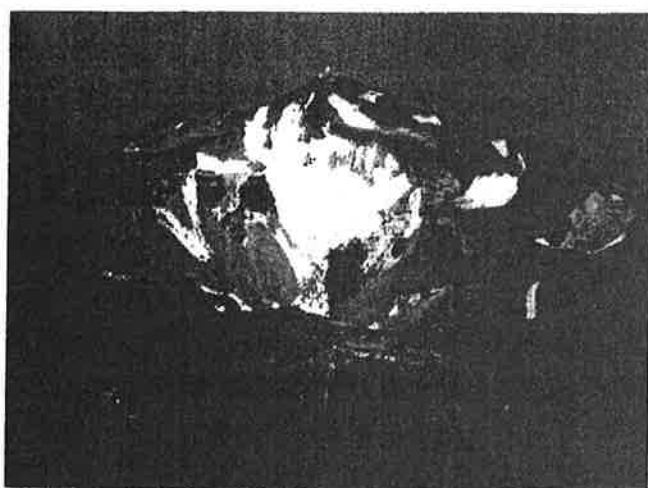
(わたなべとよひろ、NPO 法人 富士山クラブ事務局長)

美しい富士山を子どもたちに残していくために…



「富士山トイレ浄化プロジェクト」

バイオトイレ実証実験 3 年間の総括報告



残雪のようにも見えるし尿垂れ流しの痕跡「白い川」



し尿問題解決の処方箋・富士山クラブのバイオトイレ

大阪会場	11月 3日(日) 17:00 ~ 19:00	アクス・ネッツ(大阪市北区)
東京会場	11月18日(月) 18:30 ~ 20:00	毎日ホール(東京都千代田区)

1. 「富士山トイレ浄化プロジェクト」のこれまで

NPO 法人富士山クラブは、2000 年度より「富士山トイレ浄化プロジェクト」として、富士山のし尿処理問題の解決に向けた実践的・具体的な環境保全活動を進めてきました。

まず 2000 年度には吉田口・須走口の各五合目に、山小屋の協力と多くの市民ボランティアや企業の協力を得ることで、NPO としては初めて富士山に杉チップタイプ 2 基の環境バイオトイレを仮設設置し、富士山の過酷な立地・気象状況下での有効性の実証実験を行いました。

続く 2001 年度には前年の経験と成果をもとに、様々な改良を環境バイオトイレに加えた上で、富士山頂に杉チップタイプ 1 基、おがくずタイプ 1 基の合計 2 基を、前年度以上の多くのボランティアや企業の協力を得て、仮設設置しました。循環水の不足等のトラブルに見舞われながらも、山頂において約 5000 人もの登山者のし尿を二酸化炭素と水に分解処理し、富士山頂でもバイオトイレが機能することを立証することができました。

2001 年度に設置された 2 基の環境バイオトイレは、様々な関係各所のご理解とご協力のもと、最低気温約 -30 度、最大瞬間風速約 45m という過酷な状況下において、富士山頂では初の越冬を試みました。



越冬中の環境バイオトイレ
(2002 年 6 月 8 日富士山クラブ会員篠原豊氏撮影)

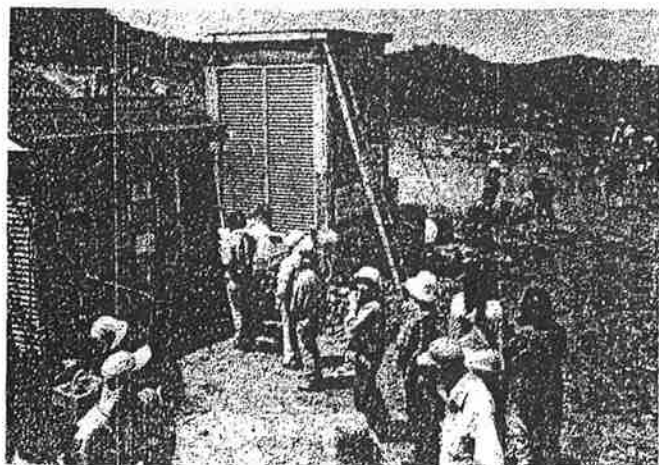
2. 2002 年度「富士山トイレ浄化プロジェクト」経過

越冬中、2 基の環境バイオトイレは、苛酷な自然環境に耐えてきましたが、さすがに富士山頂ということで一部、反応槽やトイレ棟に強風等による若干の破損があったことが確認されました。

台風の本土上陸に伴い、再稼働準備の始まる時期が当初の予定より延期されましたが、7 月 8 日（月）から再稼働に向けた準備を開始し、7 月 20 日（土）までに全てのシステムを再稼働させることができました。

トイレ利用の際に、登山者に協力をお願いする「協力金」については、昨年同様 1 回の使用につき 200 円を設定しました。これは、同等金額を設定することで昨年との比較を行い、利用者のトイレ使用についての意識変化を検証するためです。

富士山頂では佐藤永史郎氏・柳沢康彦氏・小賀坂允氏の 3 名が交代で常駐し、昨年に引き続き協力金の管理やトイレ本体のメンテナンス、アンケート調査の実施、また「生命の水運搬ボランティア」による山頂までの補給水の受け入れを行っていただきました。



2002 年夏、稼働中の環境バイオトイレ

2002 年度稼働中、越冬の影響とみられるゴムパッキン等の劣化による稼働停止を数回余儀なくされましたが、トイレのシステムそのものは無事、8 月 17 日（土）までの 29 日間、シーズン中の稼働を続けることができました。

8 月 19 日（月）から本格的に富士山頂からの撤去作業を開始し、8 月 23 日までに全ての作業を終了しました。尚、富士山頂から撤去された杉チップ式環境バイオトイレは、山梨県足和田村の「富士山もりの学校」に移設されています。

3. 設置バイオトイレ概要

富士山山頂（富士宮口登山道頂上環境省直轄トイレ前）

- ・富士山頂上仕様 杉チップタイプバイオトイレ 1基 （東陽細業製作）
自己完結型水洗トイレ 処理能力最大 500 人／1 日
- ・おがくずタイプバイオトイレ U-25L 型 1基 （コスモエース工業製作）
水・汲み取り不要トイレ 処理能力最大 100 人／1 日

五合目（須走口登山道五合目東富士山荘横）

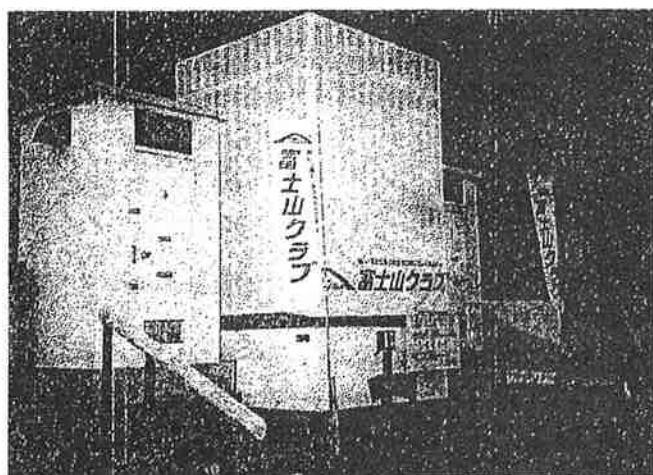
- ・平成 12 年度使用 L 型 杉チップタイプバイオトイレ 1基 （東陽細業製作）
自己完結型水洗トイレ 処理能力最大 400 人／1 日

五合目（吉田口登山道五合目佐藤小屋前）

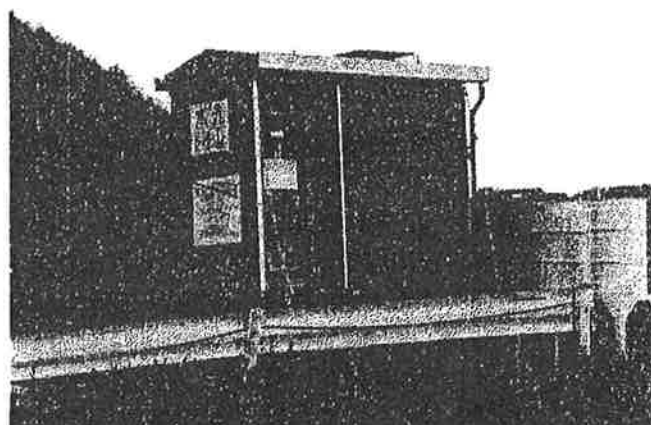
- ・平成 12 年度使用 S 型 杉チップタイプバイオトイレ 1基 （東陽細業製作）
自己完結型水洗トイレ 処理能力最大 200 人／1 日

五合目（吉田口登山道五合目佐藤小屋）富士山山小屋バイオトイレ恒久設置第 1 号

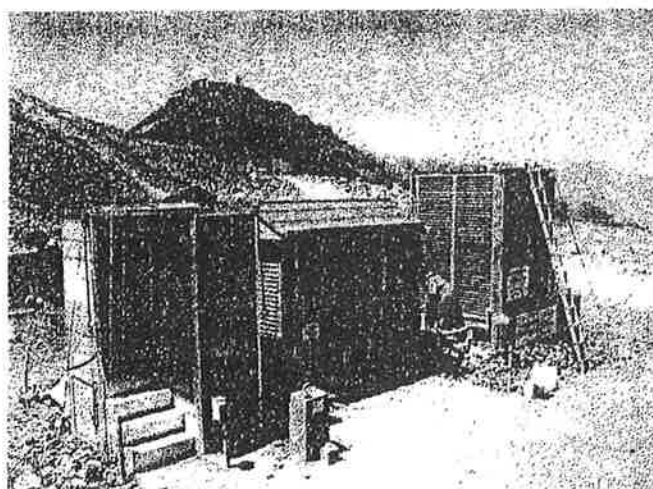
- ・富士山頂仕様から改良された新型杉チップタイプバイオトイレ（東陽細業製作）
自己完結型水洗トイレ 処理能力最大 500 人／1 日



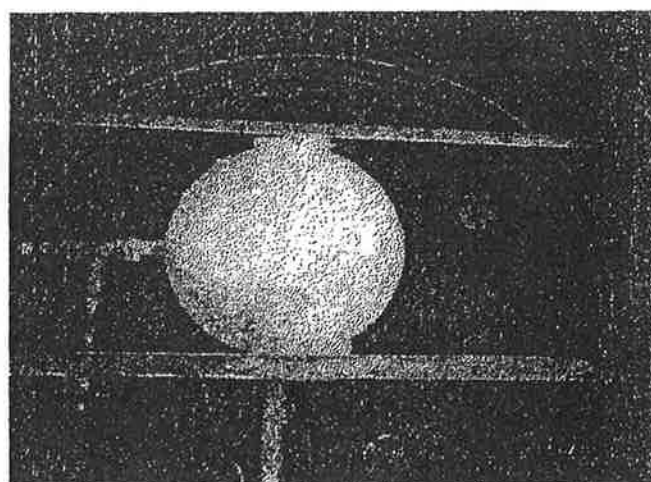
2000 年度 須走口五合目東富士山荘設置型



2000 年～2001 年度 吉田口五合目佐藤小屋設置型

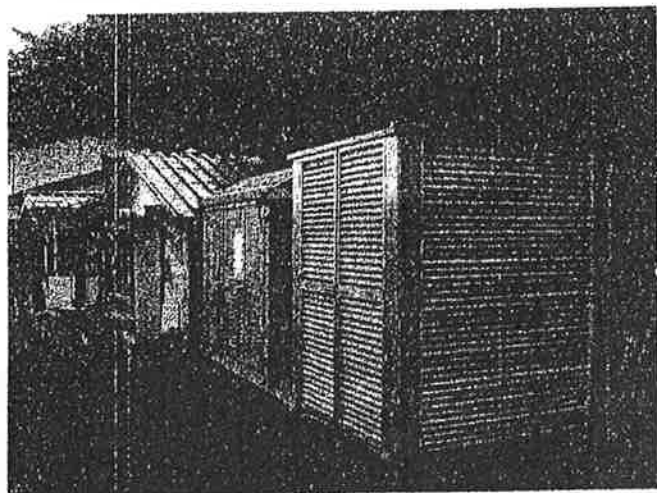


2001 年～2002 年度 富士山頂設置型



富士山頂使用に改良された反応槽内部と杉チップ

また、富士山吉田口五合目佐藤小屋さんでは、過去2年間の有効性実証実験の結果を踏まえて、富士山では初の杉チップ式環境バイオトイレの山小屋導入を決め、9月15日(日)に恒久設置を完了しました。山小屋を営業される10月下旬まで稼働を続けましたが、昨年同様トラブルはまったくありませんでした。



富士山に初めて恒久設置された杉チップ式環境バイオトイレ
(吉田口五合目佐藤小屋)

洋式便器2穴、小用便器1穴
最大処理能力 500人 / 1日

4. 「富士山トイレ浄化プロジェクト」成果

利用状況データ

	設置場所	稼働日数	利用者数	協力金合計	協力金平均	備考
2000年	東富士山荘	104日	6,324人	122,539円	約19円/1人	協力金100円
	佐藤小屋	80日	3,388人	81,158円	約24円/1人	協力金100円
2001年	富士山頂	37日	4,389人	747,000円	約171円/1人	協力金200円
	佐藤小屋	113日	3,820人	118,038円	約31円/1人	協力金100円
2002年	富士山頂	29日	4,250人	936,683円	約220円/1人	協力金200円
	佐藤小屋(注1)	30日	約200人	約20000円	約100円/1人	協力金200円
合計	のべ3ヶ所	393日	22,371人	2,025,418円	約94円/1人	—

注1) 2002年度佐藤小屋のデータについては、佐藤小屋主人佐藤保氏による報告より記載

稼働状況

2000年 吉田口・須走口五合目	若干のオーバーフロー、配管の詰まりなどのトラブルはあるものの、五合目での微生物によるし尿の分解には問題は無し
2001年 富士山頂・吉田口五合目	- 反応槽内ヒーターの強化等の富士山頂仕様として稼働させることで、富士山頂でのし尿処理を可能とする - 記録的な好天の連続による雨水の確保が困難だったことと反応槽からの水漏れのために処理水が不足。ボランティア等による補給水の運搬を行う - 五合目に再設置した改良型については一切トラブル無し
2002年 富士山頂・吉田口五合目	- 富士山頂初の越冬実験により、反応槽屋根・トイレ棟壁面が一部破損するも、処理機能に問題はなく再稼働が可能 - 稼働中、越冬による部品の劣化等により数回の稼働停止があったが、全て復旧できた - 五合目佐藤小屋において富士山初の杉チップ式バイオトイレ恒久設置を実施し、10月下旬の稼働停止までトラブル無し

5. アンケート調査

富士山頂で環境バイオトイレ利用者に対してアンケート調査を行いました（アンケート対象 200 人）。特に意見の多かった回答についてご紹介します。

○ 環境バイオトイレについて「よい点」

- ① いやな臭いがしない
- ② 清潔であること
- ③ 水洗トイレであることがうれしい

× 環境バイオトイレについて「悪い点」

- ① 使用済みの紙を捨てられない
- ② 分別用のゴミ箱の中が見えてしまう
- ③ 個室が狭い



6. 市民ボランティア・企業・行政、さらに山頂スタッフの協力

「富士山トイレ浄化プロジェクト」は、NPOである富士山クラブだけでは決して行うことのできない壮大なプロジェクトです。環境バイオトイレの設置・運営による今回の有効性実証実験は、富士山クラブ会員をはじめ本当に多くの市民ボランティアの方々からの富士山に対する熱い思いと実行力、プロフェッショナル集団の支援、助成団体からの資金助成、そして地元関連団体・行政との協働事業という形で実現させることができました。

また、特に富士山頂では環境バイオトイレのメンテナンス、トイレの清掃・管理、協力金の管理等のために、厳しい環境下で山頂常駐スタッフが協力して下さいました。

プロジェクト全体で協力して下さいましたボランティアの方々は、3年間で延べ2000人以上にものぼります。

ご支援・ご協力、本当にありがとうございました。

● 市民ボランティア協力者（山頂杉チップ運搬・補給水運搬ボランティアを含む）

JATA日本旅行業協会ボランティア隊 旭化成労働組合大仁支部ボランティア隊 国立中央青年の家ボランティア隊 セブン・イレブンみどりの基金ボランティア隊 館山青年会議所ボランティア隊 富士急行ボランティア隊 陸上自衛隊 富士学校ボランティア隊 川村龍一ボランティア登山隊

他、3年間で1000名を超える個人ボランティアの方々

● 協力企業・団体

JATA日本旅行業協会 影山木材 コスモエース工業 自転車振興会 住友建設静岡支店 セブン・イレブンみどりの基金 セブン環境NPOセンター (財)たばこ産業弘済会・(社)日本フィランソロピー協会 頂上富士館 東洋検査センター 東陽網業 広川建設 富士急行 富士コンクリートサービス 富士山表富士宮口登山組合 富士山本宮浅間大社 ふじのくにまちづくり支援隊 富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合 古川熱学エンジニアリング 毎日新聞社 吉田口五合目佐藤小屋

他、多数の企業・団体

● 行政

小山町 環境省 御殿場市 静岡県 裾野市 鳴沢村 富士市 富士宮市 富士吉田市 文化庁 山梨県

● プロジェクト担当スタッフ（山頂常駐）

大井英明（2002年） 小賀坂允（2002年） 佐藤永史郎（2001年・2002年） 富樫将人（2001年） 柳沢康彦（2002年）

（五十音順、敬称略）



ボランティアによる杉チップ運搬 (2001 年)



「生命の水」運搬ボランティア (2002 年)



2001 年山頂スタッフ



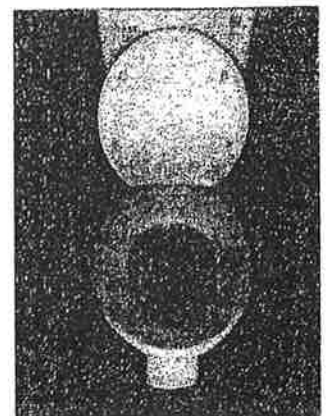
2002 年山頂スタッフ

7. 化学的調査・分析

2000 年度から始まったこのプロジェクトでは、富士山の厳しい環境下で水洗による自己完結型トイレが果たして有効であるかを検証するための実験事業として行ってきました。そのため、導入するトイレが有効であるかを検証するための材料として、し尿の処理後に生成される水（循環水）について水質検査を続けてきました。

また、2002 年度には富士山頂初の越冬実験ということから、越冬後の杉チップやおがくずそのものの状態を確認し、それらが再稼働後にどのように変化しているのかを確認するために回収し、検査をしました。

検査は COD（化学的酸素要求量）・BOD（生物化学的酸素要求量）・SS（浮遊物質）などをはじめ、窒素量やリン量、大腸菌群数などを検査しています。現在、2000 年度から 2002 年度までに収集した水質検査の結果について、専門家に分析していただいています。今年度中には 3 年間におよぶプロジェクトの総括報告書をまとめ、関係各所に配布する予定です。



洗浄水は茶色でも、ちゃんと洗い流してくれます。臭いもまったくありません。

8. キーワード

- ① 放流式
 - … し尿をタンクに蓄積し、シーズンが終わると大量の水とともに山肌に流すし尿処理方式。富士山は地面の下が岩盤であるために、浄化槽設備を整備することが非常に困難であるためと、これまでは技術開発がなかったために、古来より山小屋等でやむなく採用していた方式。
- ② 「白い川」
 - … 放流式トイレの垂れ流しによってできてしまった、山肌に数十メートルにわたってこびりついているし尿の跡。登山家の田部井淳子氏が命名とも。「白い川」を形成しているのはし尿そのものではなく、無菌状態に近い高地で分解されずに何年も積み重なってしまったトイレトーパーと、便器の中に登山者によって捨てられたゴミがほとんど。
- ③ バイオトイレ
 - … 微生物による分解処理を行う新方式トイレ。杉チップ式、おがくず式の他にもさまざまな種類がある。2001年度の補正予算によって予算がついたために、現在各山小屋でも整備が進められ始めている。
- ④ チップ制
 - … 富士山のトイレに限らず、山岳トイレのほとんどはトイレを利用するためにチップを払う場合が多い。もちろん利用者による善意が前提ではあるが、トイレの維持管理にかかる費用は新方式・旧方式に限らず莫大にかかるために、利用者には是非とも協力して頂きたい（ちなみに、富士山は国立公園内であるために「有料」とすることはできない）。富士山クラブで整備しているトイレに関しては、富士山頂で200円、五合目で100円と設定している。
- ⑤ 便器に捨てられるゴミ
 - … 富士山のし尿処理最大の問題点。し尿処理問題はそもそもその方式（放流式等）が問題なのではなく、登山者のトイレの利用方法に問題がある。特に富士山は他の山に比べて観光客が多く、登山に対するマナーが希薄と言わざるを得ない。結果的に便器内に捨てられるポケットティッシュのビニール袋や食料のゴミなどの様々なゴミが、「白い川」をつくってしまっている。
- ⑥ 山小屋が悪いのか？
 - … 富士山の各山小屋（約60箇所）では、トイレについてこれまでも数々の実験を独自に試みてきたが、バイオトイレも含めて決定的な解決方法がないことが現状。様々な自然条件を考慮しても、やはり山小屋が悪いとは決して言うことはできないし、むしろ研究を続けてきたことには敬意を払うことも重要。
- ⑦ これからは…
 - … 国や自治体によるトイレ整備の予算もついたことから、今後はますますバイオトイレ等、新方式の処理槽の整備が進められることはまちがいない。ただ、バイオトイレも抜本的な解決策とは言えず、ハード面での整備以上に、「し尿の持ち帰り」や「便器内へのゴミの投棄の防止・予防」など、登山者ひとりひとりのモラル・マナーの向上が求められる。

(参考) 許認可申請書類提出先

土地使用関係

○浅間大社 「富士山本宮浅間大社敷地内使用について（申請）」

自然公園法関係（自然公園法第18条第3項）

○環境省 「特別保護地区内工作物の新築許可申請書」

環境省 自然環境局 南関東自然保護事務所
沼津自然保護官事務所
富士五湖自然保護間事務所

静岡県 環境部 自然保護室

山梨県 森林環境部 みどり自然課

富士宮市 環境経済部 水とみどりの課

富士市 都市整備部 みどりの課

御殿場市 市民生活部 環境保全課

裾野市 産業建設部 産業振興課

小山町 生活環境課

富士吉田市 環境政策課

鳴沢村 企画課

文化財保護法関係（文化財保護法第80条第1項）

○文化庁 「特別名勝の現状変更許可申請書」

文化庁

静岡県 教育委員会 文化課

山梨県 教育委員会 学術文化財課

富士宮市 教育委員会 文化課

富士吉田市 教育委員会 文化振興課

山梨県側恩賜林関係

○山梨県 富士北麓・東部地域振興局 吉田林務環境部 県有林課
「恩賜県有財産土地無償使用承認申請書」

○富士吉田市外ニヶ村恩賜県有財産保護組合
「入会地への工作物の一時設置について（申請）」

富士山トイレ浄化プロジェクト 2002

バイオトイレ募金のお願い

厳しい富士山頂の自然条件を克服した富士山頂の2基のバイオトイレは、その後も大きなトラブルに見舞われることなく、また補給水運搬のボランティアの方々からの多大なるご協力もあり、今シーズンの稼働も終了して無事に8月末をもって富士山頂から撤去することができました。利用者からの声も大変好評を得ることができました。これも一重に皆様からの温かいご支援・ご協力があったことです。本当にありがとうございました。

さて、富士山頂からの撤去に伴い、トイレの運搬費用、山頂での作業費用などを含め、仮設設置当時とほぼ同額の費用がかかっております。今後、この成果を全国の皆様に発信し、富士山のみならず山岳し尿処理問題に一石を投じる提案を進めていく事業展開を予定しております。

先般よりお願いしております「富士山トイレ浄化プロジェクト緊急募金」ですが、皆様からの熱い思いとともに、全国各地からたくさんの募金をご協力いただいております。事務局スタッフ、また山頂スタッフ一同、感謝の念に絶えないとともに、皆様からの思いを富士山のために、そして微力ながら未来の子どもたちのために活用できるように、日々邁進しております。

しかし、撤去にかかった費用を補うには、あとわずかですが不足しているのが現状です。

そこで度々のお願いで誠に失礼ではありますが、3年間にわたるこのプロジェクトを成功させるための最後の募金を、どうか皆様よろしく願いいたします!!

— 募金受付 —

郵便振替

口座番号 00870-8-13047
加入者名 富士山クラブ

お問い合わせは…

富士山クラブ静岡事務所 (現金書留、また直接事務所を訪ねて下さっても結構です)

〒411-0036 静岡県三島市一番町9-42 大洋ビル3階

TEL / 055-983-4133

FAX / 055-981-1478

特定非営利活動法人 富士山クラブ

静岡事務所 (本部) : 〒411-0036 静岡県三島市一番町9-42 大洋ビル3F

TEL : 055-983-4133 FAX : 055-981-1478

山梨事務所 (富士山もりの学校) : 〒401-0332 山梨県南都留郡足和田村西湖2870

TEL : 0555-20-4600 FAX : 0555-20-4601

東京事務所 : 〒105-0013 東京都港区浜松町2-2-15 浜松町ダイヤハイツ601号室

TEL : 03-5408-1541 FAX : 03-5408-1507

富士山クラブホームページ : <http://www.fujisan.or.jp>



顔
費やした。
トイレは無償で
も、山頂への設置
行錯誤に一年余を
スケジュールの週末には年
内一杯、空白はない。
(静岡支部 滝沢 廣弘)

山頂のトイレは「汚くて、臭い」と評判悪く、霧峰・富士も例外ではない。垂れ流され、た汚物で白く変色した山肌。「環境バイオトイレ」を設置したのは、その惨状に胸を痛めていたからだではない。「富士山のトイレ問題をきつかけに、山の常識を変え、快適な登山を楽しめる環境にしたい」との思いがあった。

市民パワーでここまでやれた

昨年五月、富士山シンポジウムを通して知り合ったトイレの開発メーカー社長に現状を訴え、製品の無償提供を取りつけた。し尿を分解、水に変える微生物の活動を極寒の山頂でどう保つか、風速二十以上の強風に耐えられるには、メーカーと共に試行錯誤に一年余を費やした。トイレは無償でも、山頂への設置はボランティアが買っただけでは、その惨状に胸を痛めていたからだではない。「富士山のトイレ問題をきつかけに、山の常識を変え、快適な登山を楽しめる環境にしたい」との思いがあった。

富士山頂にバイオトイレを設置した「富士山クラブ」の事務局長
渡辺 豊博さん



● 73年静岡県庁に入庁、現在はNPO推進室長。静岡大農学部非常勤講師。51歳。